2025年度 児童館年間利用数

井吹西児童館

2024年度							2025年度					
学年	学童登録人数	延長保育		学童登録人数	延長保育							
		17時～18時	18時～19時	（夏休み限定）	17時～18時	18時～19時						
1年	60 名	22 名	10 名	63(3) 名	20 名	10 名						
2年	65 名	17 名	10 名	60(7) 名	15 名	7 名						
3年	39 名	10 名	6 名	52(12) 名	14 名	8 名						
4年	39 名	7 名	5 名	27(6) 名	10 名	2 名						
5年	8 名	1 名	1 名	18(5) 名	2 名	3 名						
6年	4 名	0 名	0 名	3(1) 名	0 名	1 名						
合計	215 名	57 名	32 名	223(34) 名	61 名	31 名						

自由来館者数

2024年度							2025年度						
幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計	幼児	小学生		中高生	大人	その他	合計
	1～3	4～6						1～3	4～6				
2,415	619	557	102	2,305	20	6,018	4,845	906	519	35	2,982	5	9,292

学童年間利用数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024年度	3,366	2,948	3,151	3,367	2,677	2,725	2,931	2,626	2,603	2,343	2,169	2,420	33,326
2025年度	3,532	3,324	3,254	3,494	2,575	3,002	2,930	2,479	2,625	2,407	2,157	2,686	34,465

ヒヤリハット　A（危険度重）B（危険度中）C（危険度軽）	事故報告　（受診を要した件数）	要望・意見・苦情　報告
A：　1　件　　B：　17　件　　C：　6　件	3　件	要望：　1　件　　意見：　1　件　　苦情：　1　件

方基法針本人	重点目標	計画(P)	実践内容(D)	評価(C)	改善（A）
サービスの質の向上	子育て支援の強化	・チーフアドバイザーをアピールし子育て支援を気軽に行う工夫をする ・毎日のプログラムを充実させる ・放課後や土曜日、長期休みに気軽に利用できるよう広報を充実する。 ・月齢や発達に応じたプログラムを考える。 ・アドバイザーの質の向上 ・おでかけギフトのアピールをする ・ひろばの担当制を実施し、それぞれが丁寧に企画進行する。	・専門分野の講師（写真家・リトミック・歯科衛生士など）を招く ・人気の手形足型を定期的に行う ・館外プログラムではシャボン玉、パラバルーン、落ち葉拾いなどを行う ・インスタグラム、小学校PTAやすぐーるなどで幅広く広報を行う ・夏休みは児童館を開放し様々なプログラムを実施する。 ・職員研修には積極的に参加し視野を広げ常に時代に合ったプログラムを提供する	・サロンや赤ちゃんタイムにはカフェタイムを行い大好評であったので来年度も続けたい ・０．１歳児の利用が多いので手形足形、ねんねアートなど記念に残る製作に力をいれ喜んでもらえた ・インスタフォロワーも増加し掲示版にも工夫を凝らし問い合わせが増えた。引き続きインスタ投稿も行う ・夏休みひろばは大好評であった ・おでかけギフトの来客も多かった	・時代のニーズを把握し、専門家の依頼など気軽に来館できる工夫をする ・インスタやグーグルを活用する ・夏休みの児童館開放を引き続き行う ・すこやかクラブの対象年齢を柔軟にし申し込みしやすい場をする ・定期的に出張児童館、出前保育を行いにこにこ園との連携を行う ・チーフアドバイザーの研修を活かし相談窓口として積極的に関わっていく ・地域との関わりも増やしていく
	児童育成の拡充	・学童人数の過密化により一般来館が来館しづらくないように集会所を確保したり、工作スペースを作るなど環境づくりを工夫する ・英語や手話、囲碁将棋など普段できない体験の機会をつくる ・職業体験や福祉体験の場を提供する ・中高生の居場所を作り小学生との関わりを楽しめるゲームなどを企画する。保育の楽しさを知ってもらう。 ・年齢に合った遊びの提供をし、また学習の場を確保する。	・高学年の役割を伝え、イベント企画を一緒に行う ・長期休みには講師を招いたり様々なプログラムを行い居場所をつくる。 ・放課後や土曜日には、一般来館児の時間も設けバトミントンや卓球など体を動かせる遊びを準備する。 ・ワークキャンプやトライやるでは中高生に自分の居場所であることも伝え今後の活動につなげる ・縦割りで遊びを行いながら役割分担を促す。	・夏まつり、クリスマス会の企画進行を喜んで進めることができた ・夏休みには小学校内で学童保育を行い、様々な企画を体験できた ・土曜日や長期休みのイベントを増やし一般来館の増加につなげた。 ・ワークキャンプやトライやるでは親子や小学生に関わりをもつことで将来への希望とともに自身の居場所でもあることを伝えることができた ・遊び方委員会を設置しルールづくりを行った。	・引き続き、様々な体験プログラムを企画し、地域の身近な居場所となる工夫をする。 ・夏休みにはおべんとうひろばを毎日開催し小中学生の居場所も確保する。 ・高学年の学童児童にイベントを企画実行させることで達成感を味わせる ・ワークキャンプやトライやるの内容を充実させるためマニュアル作成を行う。 ・幅広い世代に周知できる広報を考える。 ・夏まつり、クリスマス会は無料にし、気軽に参加できる企画をする。
地域との共生	地域との連携	・地域と協力して街全体の状況を共有する。防災訓練やイベントには参加だけでなく、打ち合わせや準備にも加わり共に地域を支える。 ・小中学校の運営協議会に参加し現状を共有し協力し合う。 ・いきいきシニアの募集を積極的に行い、児童との関わりを大事にする ・囲碁将棋クラブを再度たちあげる	・防災訓練、夏休みの居場所、見守り等地域の方と協力し情報共有する ・クリスマス会のサンタ依頼をする ・児童館のイベントに積極的にお誘いし、共に楽しむ機会をもつ ・運営協議会では、先生方や地域との意見交換ができた。 ・いきいきシニアの受け入れをする ・地域の名人に講師の打診をする	・ふれまち、青少協、老人会と定期的に関わりが持てている。 ・イベントに参加していただくことで域と児童（保護者）をつなぐ ・小学校と情報の共有、中学校は夏まつりボランティア、トライやるで深く関わることができた。 ・いきいきシニアは6人の登録がある ・健康麻雀クラブが立ちあがった	・毎月の定例会では、書記をうけおう。 ・防災イベントは協力して開催する。 ・グランドゴルフ、ボッチャで三世代交流を企画し地域で楽しむ機会を設ける。 ・囲碁将棋クラブを立ち上げ、地域と児童の関わりを増やす。 ・いきいきシニアの登録数を増やす ・地域の行事で学童児童のダンスを発表する。
	年間利用数	・放課後児童クラブ年間利用者予定数（30,000名） ・自由来館年間利用者予定数（7,000名）	・放課後児童クラブ年間利用者数（34,465名） ・自由来館年間利用者数（9,292名）	・昨今の共働き家庭の増加に伴い学童登録児童数はまだ増加傾向にある。 ・年間利用者数は夏休み学童と夏休み開放を積極的に行ったため増加した ・午前中の利用者数は少子化と働く母親の増加により減っている ・小中学生の放課後利用者が増加した	・学童保育の過密対策を考える。 ・復職する前の親子を対象としたプログラムを中心に、インスタグラムを活用して広報に力を入れる。 ・「屋根のある公園」を全面的にアピールし、小中学生や、幼稚園児親子の来館を増やしていく